

第2回吉田高校学校運営協議会

令和3年10月31日（日）

場所 吉田高校朝日子ホール

開会 午前9時30分

次 第

司会 數野浩司

- 1 開会の言葉（司会）
- 2 学校長あいさつ
- 3 学校運営協議会会長あいさつ
- 4 教育活動報告（教頭谷内より）
 - （1）理数科「課題研究」発表会報告
 - （2）学園祭「蒼風祭」の観覧報告
 - （3）部活動報告（関東大会、全国大会）
 - （4）総合的な探究の時間における地域連携関係の報告
- 5 議事（議長 鶴田清司会長）
 - （1）令和3年度第1回学校評価報告と第2回学校評価に向けての対応
（総務主任 渡邊より）
 - （2）令和4年度教職員任用について
 - （3）その他
- 6 報告事項
 - （1）「魅力づくり学校づくり事業」への応募について
 - （2）その他
- 7 連絡事項
 - （1）次回学校運営協議会開催日について
 - （2）その他

閉会の言葉

4 教育活動報告

(1) 理数科「課題研究」発表会報告

開催期日・時間 9月26日(日) 午後12時45分より
開催場所 本校視聴覚
参加者 理数科1.2年(80名)
2年生:研究発表者・聴講者
1年生:聴講者
発表方法 発表時間10分以内 質疑応答時間3分以内
グループ毎に発表を行う
グループ員全員が必ずプレゼンテーションをおこなう。
プレゼンテーションソフト(PowerPoint)を使用

研究協力機関(8機関:令和3年度)

- | | |
|----------------|------------------------|
| ①富士山科学研究所 | ②山梨県産業技術センター富士技術支援センター |
| ③健康科学大学 | ④昭和大学 |
| ⑤山梨県立産業技術短期大学校 | ⑥帝京科学大学 |
| ⑦富士山の銘水株式会社 | ⑧富士癒しの森研究所 |

研究内容と協力機関

1班	富士山科学研究所	様々な揺れの計測 ～地震計をつくる～
2班	富士技術支援センター	メラミン樹脂を用いた繊維製品の機能性加工についての研究
3班	健康科学大学	学校現場における感染症対策の実態調査
4班	健康科学大学	健康状態によって腸の働きに違いはあるか?
5班	健康科学大学	歩行動作および段昇段動作において要求される膝関節角度と下肢筋活動
6班	昭和大学	テキストマイニングのアルゴリズムについて理解を深める
7班	昭和大学	身近な漢方薬の科学的解析
8班	山梨県立産業技術短期大学校	AIの月探査
9班	帝京科学大学	PCR法によるメダカの稚魚の雌雄判別とVASA抗体による生殖細胞の観察
10班	帝京科学大学	基本動及び姿勢のバイオメカニズム
11班	帝京科学大学	運動時のバイタルサインから考える日常生活に潜む危険
12班	帝京科学大学	酵母の力を知る
13班	富士山の銘水株式会社	次亜塩素酸の正体を明らかにする
14班	富士癒しの森研究所	リモートセンシング、GIS技術活用によるナラ枯れの被害状況把握

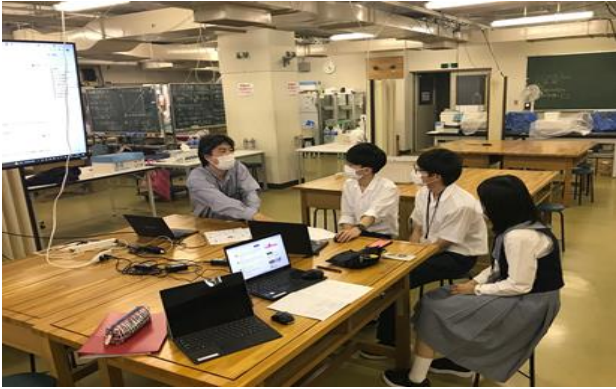
『課題研究』とは、科学及び数学に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技能の深化、問題解決能力や自発的、創造的な学習態度を育てることを目標とする理数科専門科目であり、必修科目である。

令和4年度の2年生までは1年時終了時から2年時9月末までの活動を行っていたが、令和4年度入学生からは「理数探求」という名称になり、さらに専門的な探究的活動がもとめられ、卒業までの3年間を通じての探究活動になる予定である。

地元の企業、研究所、大学等に協力をお願いし、各機関に生徒が赴き、そこで実際に研究させていただいている。

尚、栗井英朗環境財団助成事業として実施している。

また、4班は10月9日(土)に行った中学生・保護者向け理数科説明会「理数科セミナー」において、中学生・保護者に対して発表を行った。



(2) 学園祭「蒼風祭」の観覧報告

開催日 令和3年7月2日(金) 3日(土) 5日(月) 代休日
内容 当日実演項目 ミュージカル クラス企画 ブロック企画
展示項目 ガラス画 クラス旗・ブロック旗
方法 感染症蔓延防止ため、保護者を含む一般公開は実施しなかった。
ミュージカル、クラス企画、ブロック企画は2日連続で同一物を実施
その他 本運営協議会委員3名に7月3日(土)に蒼風祭をご高覧頂いた。

ご高覧頂いた委員より、次のような感想を後日頂きました。

1. コロナ禍の中での学園祭でしたが、ミュージカルでは三密を避ける為の全校生徒を半分に分けるなどの工夫に関心しました。
2. クラス企画も、趣向を凝らしての作り込みが素晴らしく、故障した電気系統を治す生徒さんなど、それぞれの持ち場で活躍する生徒がいきいきと感じられた。

学校の勉強ばかりではなく机から離れて友だちと活動する事で、情操の部分、人間力を磨くことが出来ると思っていますので、学園祭がコロナ禍でも工夫しながら開催出来た事を吉田高校の先生方に感謝しています。(あの、感動の合唱祭が出来なかった事は悔やまれますが)

子ども達が、先生たちと工夫しながら作り上げた今回の異例の学園祭が、将来の心の糧になってくれると信じていますし吉高生はそこを感じてくれているとも思っています。

どんな事も当たり前に行われた今までとは違う学園祭で、かわいそうですが逆に学ぶことが大きかったです。



(オープニング)



(ミュージカル)



(クラス企画)



(クラス企画)



(文化局発表会)



(ブロック旗クラス旗)

(3) 部活動報告 (全国大会、関東大会出場)

①全国大会参加部と成績 (入賞、入選に限る)

高等学校体育連盟、高等学校文化連盟関係

★全国高等学校総合体育大会

・ウエイトリフティング部

男子 55 kg級第 1 位 梶原健成 男子 67 kg級第 7 位 高草公佑

男子 96 kg級第 6 位 武藤琉佑

・ボート部

★全国高等学校総合文化祭

・囲碁将棋部 (将棋班・囲碁班・かるた班) ・音楽部 ・放送部

②その他の全国大会

★NHK 全国高等学校放送コンテスト (放送部)

ラジオドキュメント部門「志村正彦先輩の教え」ー 制作奨励賞 (270 作品出展中)

テレビドキュメント部門「ありがとう志村正彦先輩」ー 入選 (413 作品出展)

★全国高等学校囲碁選手権大会 (囲碁将棋部 囲碁部)

③関東高等学校大会 (出場部及び優勝者名)

・ウエイトリフティング部：優勝 宮下姫実、梶原健成

・ボート部：優勝 男子ダブルスカル 塘智行、勝呂日陽

ヨット部、陸上競技部、弓道部

④その他の関東大会 (大会名 優勝者名)

・ウエイトリフティング部 (関東選手権 梶原健成 武藤琉佑)

・陸上競技部 (関東選手権) ・音楽部 (関東合唱コンクール)



(4) 総合的な探究の時間における地域連携関係の報告

1 学年

7 / 14 (水) : 楽問楽学

大学模擬授業。山梨大学・都留文科大学など地域の大学に講義依頼

講座名		出席校・講師	テーマ・授業内容
経済・経営		中央大学	日本人の働き方の「常識」について考える
国際関係		都留文科大学	カリブ海から考える多文化共生
教育		山梨大学	対人関係の心理学
看護		順天堂大学 保健看護学部	《内容検討中》
薬学		明治薬科大学	今日から使える薬学のマメ知識
法学	※	日本大学法学部	ゲームアプリの法律問題-法的トラブルにどう対処すべきか考えてみよう-
医学		山梨大学	日本の医療の現状と医師に求められるもの
建築		芝浦工業大学【オンライン】	木でつくる懐かしい未来
機械	※	東京電機大学【オンライン】	
生命・環境		東京薬科大学	生物や環境が発するメッセージに耳を傾ける
医療技術		北里大学 【オンライン】	《内容検討中》
食物・栄養		女子栄養大学 女子栄養大学短期大学部	食は生命なり～栄養学×SDGs から広がる世界～
哲学・心理	※	國學院大學	※
物理		慶應義塾大学	《内容検討中》

8 / 25 (水) : 中間発表 (本校体育館)

各自で設定した探求テーマについて、地域に住む講師から探求のヒントやアドバイスを受ける

→コロナウィルス感染症拡大防止のため講師来校は中止

今後の予定

11 / 17 (水) : 校外学習 (地域の企業・諸機関)

テーマ毎に地域の企業・諸機関などに赴き、現状などの確認

→コロナウィルス感染症拡大防止のため WEB 開催

講師最終調整中

2 / 9 (水) : 学年発表会 (本校) 成果物を提示して発表。講師より評価を受ける

2 学年

6 / 16 (水) : グループ探究の企画書作成 (グループ毎本校内各会場)

富士吉田商工会青年部の講師から事例提供を受けるとともに、各グループ企画書にアドバイスを受ける

→感染対策徹底で実施。講師・アドバイザー計 25 名

13 講座とその講師

講師氏名	講演タイトル
天野 智佳	本当の自分を知るヨガ。ヨガで街づくり！? ～アメリカの大学の教育学部卒業後、 気づいたらインドにいてヨガインストラクターになったって話～

講師氏名	講演タイトル
岩田 健	手に職をつけたい！ ～脱サラして家業を継ごうそして、家族の猛反対～
加々美 琢也	地場産業の織物の歴史と今後の取り組み
鎌倉 有佑	「できる人」を因数分解。 共通項から考える、学歴だけじゃない、キャリア形成の最前線
木川 貴	マンガ好きが転生したら社長になった件
菊地 望	【日々是好日～毎日が最高～】
斉藤 涼	【思いを形に。富士五湖地域へのお客様集客と、地域の魅力発信】
清水 雅之	『地域ブランドを活かしたまちづくり ～雇用創出・地域発展に向けて～』
白須 一政	馬いる 生まれる スマイル！
高村 光	30歳で600円しかもっていなかったボクが、どうやって会社を立ち上げたか？
山口 仁美	未来に向けて「やりたい事」と「出来る事」
渡辺 博之	イマを生きること
渡辺 果林	思い立ったが吉日 3.18.'99



商工会議所（講師）



商工会議所（講師）



（先輩から後輩へのレクチャー）



（先輩から後輩へのレクチャー）

9 / 29（水）：中間発表（グループ毎本校内各会場）

各グループで設定した探究テーマについて、これまでの成果発表とともに、地域に住む講師から探究のヒントやアドバイスを受ける

→コロナウィルス感染症拡大防止のため講師来校は中止

今後予定

12 / 15（水）：校外学習（地域の企業・諸機関）

テーマ毎に地域の企業・諸機関などに赴き、現状などの確認

→コロナウィルス感染症拡大防止のためWEB開催

講師調整中

2 / 9（水）：学年発表会（本校）成果物を提示して発表。講師より評価を受ける。

令和3年度（7）月実施学校評価アンケート質問項目（1学年生徒対象）

「大いに思う」場合には「0」「ほぼ思う」場合には「1」
「あまりそう思わない」場合には「2」「全くそう思わない」場合には「3」

■回答人数:235名(7月: 232名)
■達成率=(大いに思う)+(ほぼ思う)

数字の単位は%

問題 番号	項目	質 問 項 目	0	1	2	3	達成率	↑	R2 1学 年7月
							(0+1)	↓	
1	生徒の知識活用力を高める	私は、吉田高校グラデュエーション・ポリシーを意識して生活している。	22.0	61.6	15.5	0.9	83.6	↓	88.9
2		吉田高校では、生徒に考えさせ、生徒が主体的に学ぶ授業がおこなわれている。	44.0	48.3	6.9	0.9	92.3	↓	97.4
3		私は、授業が楽しいと感じることが多い。	20.8	55.4	22.9	0.9	76.2	↓	84.3
4		私は、授業で感じた疑問を自ら調べようとしている。	25.0	64.2	10.3	0.4	89.2	↑	87.3
5	生徒の主体性を高める	私は、学習と部活動の両立に努めている。(いた。)(部活動に加入していない生徒は「9」にマーク)	49.3	40.5	10.1	0.0	89.8	↑	80.4
6		私は、身の回りに存在する課題に対して、意欲的に行動している。	28.9	53.9	16.8	0.9	82.8	↓	88.1
7		私は、自分の言動に責任を持って行動している。	45.7	46.6	6.9	0.9	92.3	↓	94.4
8	生徒の社会性を養う	新: 地域の話や課題などに興味を持って生活している。	15.1	45.7	35.3	3.9	60.8	↓	69.4
		旧: 私は、地域の人々との関わりを意識して生活している。							
9		私は、生徒会行事に積極的に取り組んでいる。	47.8	44.4	6.9	0.9	92.2		92.3
10		私は、SDGsについて学ぶとともに、以前よりボランティアについて意識し、行動できるようになった。	20.7	50.9	25.9	2.6	71.6	↑	69.4
11	その他	吉田高校では、各種の「たより」やホームページで積極的に情報を提供している。	28.9	44.8	20.3	6.0	73.7	↓	86.3
12		私は、校内で節電・節水を実践している。	43.5	41.4	14.2	0.9	84.9	↓	89.8
13	吉高GP	私は、吉田高校グラデュエーション・ポリシー(8つの力)について、高校生活の中で総合的に向上した。	34.5	56.5	8.6	0.4	91		91.5

達成率: 70%未満の項目

↑ ↓: 2ポイント以上の差がある場合に記入

5ポイント以上の差がある

◎分析

- ・ 問題番号3・・・達成度が76.2と昨年度に比べて大きく低下している。新型コロナウイルス感染症の影響で授業が多く制限の中で行われており、中学校とは学習内容も難易度も大きく変わる中で不安のあらわれと思われる。
- ・ 問題番号5・・・昨年度に比べて大きく向上している。
- ・ 問題番号8・・・達成度が60.8と昨年度に比べて大きく低下している。コロナの影響で地域との交流の機会が少なくなっていることが原因と考えられる。

◎今後の課題など

- ・ GP評価の次回の評価が向上していることを期待したい
- ・ 学習と部活動のバランスのとり方も指導していく必要性を感じる。
- ・ 問題番号8については夏休み以降で富士山学での地域探究が本格的に始まり、さらに後期は探究のまとめ、発表の機会が多くなるので、発信力・創造力・行動力などの項目が向上するような指導に取り組んでいく。

令和3年度（7）月実施学校評価アンケート質問項目（2学年生徒対象）

「大いにそう思う」場合には「0」「ほぼそう思う」場合には「1」
「あまりそう思わない」場合には「2」「全くそう思わない」場合には「3」

■回答人数:238名(7月:232名)
■達成率=(大いに思う)+(ほぼそう思う)

数字の単位は%

問題 番号	項目	質 問 項 目	0	1	2	3	達成率 (0+1)	↑ ↓	R2 2年 7月	↑ ↓	R2 1 年時7 月	↑ ↓	R2 1 年時1 月
1	生徒の知識活用力を高める	私は、吉田高校グラデュエーション・ポリシーを意識して生活している。	19.8	59.1	20.7	0.4	78.9	↓	81.0	↓	88.9	↓	88.7
2		吉田高校では、生徒に考えさせ、生徒が主体的に学ぶ授業がおこなわれている。	46.6	48.7	4.3	0.4	95.3	↑	87.9	↓	97.4		96.2
3		私は、授業が楽しいと感じることが多い。	19.0	59.5	20.3	1.3	78.5	↑	68.4	↓	84.3	↓	84.1
4		私は、授業で感じた疑問を自ら調べようとしている。	26.7	56.9	16.4	0.0	83.6	↑	83.2	↓	87.3	↓	86.2
5	生徒の主体性を高める	私は、学習と部活動の両立に努めている。(いた。) (部活動に加入していない生徒は「9」にマーク)	41.8	41.8	14.1	2.3	83.6	↑	74.7	↑	80.4	↑	79.1
6		私は、身の回りに存在する課題に対して、意欲的に行動している。	29.9	53.7	15.6	0.9	83.6	↑	77.9	↓	88.1		83.2
7		私は、自分の言動に責任を持って行動している。	43.1	49.1	6.9	0.9	92.2		92.1	↓	94.4		94.1
8	生徒の社会性を養う	新: 地域の話や課題などに興味を持って生活している。	21.6	40.5	35.3	2.6	62.1		62.1	↓	69.4	↑	57.7
		旧: 私は、地域の人々との関わりを意識して生活している。											
9		私は、生徒会行事に積極的に取り組んでいる。	48.3	39.7	10.3	1.7	88	↑	86.3	↓	92.3		86.6
10		私は、SDGsについて学ぶとともに、以前よりボランティアについて意識し、行動できるようになった。	25.9	51.7	21.1	1.3	77.6	↑	57.4	↑	69.4		77.8
11	その他	吉田高校では、各種の「たより」やホームページで積極的に情報を提供している。	30.3	47.2	18.6	3.9	77.5	↑	70.3	↓	86.3		78.2
12		私は、校内で節電・節水を実践している。	41.4	45.3	13.4	0.0	86.7	↑	84.1	↓	89.8		87.9
13	吉高GP	私は、吉田高校グラデュエーション・ポリシー(8つの力)について、高校生活の中で総合的に向上した。	31.9	61.6	6.0	0.4	93.5	↑	88.9	↑	91.5		93.7

達成率:70%未満の項目

↑ ↓ : 2ポイント以上の差がある場合に記入

5ポイント以上の差がある

◎分析

- ・問題番号1・・・過去と比較すると低評価であるが問題番号13の回答では高評価であり矛盾がある。
- ・問題番号3・・・昨年7月は臨時休校が解除され、「学校に来られる」「教室で授業が聴ける」という新鮮な気持ちで過ごしていたことは容易に想像できる。「中だるみの2年生」に入ってしまったのか。

◎今後の課題など

- ・個人的に意識するGPも2か月ごとに決めさせ、卒業まで継続して指導していく。
- ・総合的な探究の時間や修学旅行など、グループで動く授業や行事が多いので、それらを上手く活用し、まずは様々なことを経験させ自信をつけさせたい。
- ・年度当初より、進路研究の一環として「外」へ視点を向ける指導をしている。勉強と部活動の両立に加え、様々な活動に積極的に参加し、活躍の場を学校の外へと広げる呼びかけを随時行っている。

令和3年度（7月）実施学校評価アンケート質問項目3学年生徒対象）

「大いにそう思う」場合には「0」「ほぼそう思う」場合には「1」
「あまりそう思わない」場合には「2」「全くそう思わない」場合には「3」

■回答人数:257名(7月:253名)
■達成率=(大いに思う)+(ほぼそう思う)

数字の単位は%

問題番号	項目	質問項目	0	1	2	3	達成率 (0+1)	↑ ↓	R2 3年 7月	↑ ↓	R2 2 年時7 月	↑ ↓	R2 2 年時1 月
1	生徒の知識活用能力を高める	私は、吉田高校グラデュエーション・ポリシーを意識して生活している。	19.4	57.0	18.6	3.1	76.4	↓	83.2	↓	81		77.7
2		吉田高校では、生徒に考えさせ、生徒が主体的に学ぶ授業がおこなわれている。	26.0	58.9	11.6	1.2	84.9	↓	90.1	↓	87.9		83.1
3		私は、授業が楽しいと感じることが多い。	16.3	53.5	26.7	1.2	69.8	↓	82.1		68.4	↑	60.5
4		私は、授業で感じた疑問を自ら調べようとしている。	25.2	59.3	12.8	0.4	84.5	↓	87.3		83.2	↑	77.2
5	生徒の主体性を高める	私は、学習と部活動の両立に努めている。(いた。)(部活動に加入していない生徒は「9」にマーク)	29.1	36.8	10.5	1.2	65.9	↓	73.7	↓	74.7	↓	73.5
6		私は、身の回りに存在する課題に対して、意欲的に行動している。	23.3	54.3	19.4	0.8	77.6	↓	86.1		77.9	↓	80
7		私は、自分の言動に責任を持って行動している。	32.2	56.6	7.8	1.2	88.8	↓	94	↓	92.1		89.9
8	生徒の社会性を養う	新:地域の話題や課題などに興味を持って生活している。	16.3	46.5	30.6	4.3	62.8	↓	69.6		62.1	↑	50.7
		旧:私は、地域の人々との関わりを意識して生活している。											
9		私は、生徒会行事に積極的に取り組んでいる。	40.7	45.7	8.9	1.9	86.4		87.2		86.3	↑	83.2
10		私は、SDGsについて学ぶとともに、以前よりボランティアについて意識し、行動できるようになった。	17.8	50.0	27.1	2.7	67.8	↑	58.5	↑	57.4		67.5
11	その他	吉田高校では、各種の「たより」やホームページで積極的に情報を提供している。	24.0	49.2	19.4	4.3	73.2	↓	77.7		70.3		71.7
12		私は、校内で節電・節水を実践している。	31.0	52.3	13.2	1.2	83.3	↓	87.7		84.1		82.6
13	吉高GP	私は、吉田高校グラデュエーション・ポリシー(8つの力)について、高校生活の中で総合的に向上した。	27.9	60.5	8.1	1.6	88.4		89.3		88.9		88.1

達成率:70%未満の項目

↑↓:2ポイント以上の差がある場合に記入

5ポイント以上の差がある

◎分析

- ・「生徒の知識活用能力を高める」項目については、すべての問題で達成率は低下した。コロナのため、話し合い活動などの授業形態に制限がかかり、受動的な形態が多かったためだと推測する。
- ・「生徒の主体性を高める」項目については、部活や自習活動での制限があり、思うような活動ができなかったのではないかと感じる。
- ・「生徒の社会性を養う」項目については、人との交流ができない日常で厳しい結果となったが、生徒は学園祭を通じて今できる最大限のことを一生懸命にやり遂げた。

◎今後の課題など

- ・授業で感じた疑問を自ら調べようとする生徒多くいたのでさらにこの点を伸ばしたい。
- ・制限のもとで一生懸命に文武に取り組む生徒を学年集会等で大いに評価し前向きな姿勢を伸ばしていきたい。
- ・このような状況下で数字には表れていないが懸命に努力している生徒の力を評価していきたい。

第2回吉田高校学校運営協議会議事録

- 1 日 時 令和3年10月31日（日）
- 2 場 所 吉田高校朝日子ホール
- 3 時 間 午前9時30分より午前11時30分
- 4 参加委員 12名（敬称略）
鶴田 清司（会長） 三浦 雅彦（副会長）
井出 智子 中村 司朗 高保 裕樹 Hywel Evans 栗井 晶子
岩下 平輔 渡辺 太郎 立川 博
古屋 勇人（校長） 東 一孝（本校教職員）
- 5 次 第 司会 数野浩司
 - ① 開会の言葉（司会）
 - ② 学校長あいさつ
 - ③ 学校運営協議会会長あいさつ
 - ④ 教育活動報告（教頭谷内より報告）
 - （1）理数科「課題研究」発表会報告
 - （2）学園祭「蒼風祭」の観覧報告
 - （3）部活動報告（関東大会、全国大会）
 - （4）総合的な探究の時間における地域連携関係の報告
 - ⑤ 議事（議長 鶴田清司会長）
 - （1）令和3年度第1回学校評価報告と第2回学校評価に向けての対応
（担当分掌主任 渡辺重敏より説明と報告）
 - （2）令和4年度教職員任用について
 - （3）その他
 - ⑥ 報告事項
 - （1）「魅力ある学校づくり事業」への応募について
 - （2）その他
 - ⑦ 連絡事項
 - （1）次回学校運営協議会開催日について
 - （2）その他
 - ⑧ 閉会の言葉（司会）
- 6 議事録
 - （1）校長あいさつ
 - ・10月発表の中学生進路希望調査の結果に基づき、女子の希望者の減少幅が大きいことを報告し、この原因の分析と解決策の提案をお願いした。
 - ・学校評価中間報告については、委員からの助言をお願いした。
 - ・教職員任用についての要望・意見を県教育委員会へ提出できることは、学校運営協議会設置校の利点であり、協議会からの要望を県教育委員会は軽視できないものであると思われるので、積極的な意見交換をお願いした。
 - （2）教育活動報告
資料に基づき、4つの教育活動について報告を行った。理数科「課題研究」発表会報告においては、9月26日に行った発表会の映像（一班分）を視聴した。

(3) 議事

①令和3年度第1回学校評価報告と第2回学校評価に向けての対応

教頭が結果集計資料の見方について説明し、その後、担当主任が各学年からの分析と今後の対応について、説明を行った。昨年度と今年度の比較において、昨年度は4月から5月中旬まで臨時休業であったが、今年度は臨時休業なしにほぼ通常通りに教育活動が行われており、生徒の学校生活の状況が異なっている点は考慮しなければいけない点であることを改めて説明した。また、1学年の質問項目11 {本校HPに関する質問事項} について、過年度比較において大幅なポイントの低下(約13%)についての学年からの分析について補足説明を行った。その他は資料に基づいて説明を行った。

(説明後)

委員

質問項目8「地域の話題や課題などに興味を持って生活している」について、原因としては生徒たちにとって地元の街、産業そのものに魅力がないことが原因ではないかと考えている。現状を知ってもらうことが、魅力の発信にもつながると考えている。織物産業界としては、数々の方策を考えており、「ハタオリマチフェスティバル」を実施したり、織物学と題して教科書的なものを作成している。富士吉田市全体を盛り上げるためにも、織物産業について取り上げて頂きたい。そうすることによって、地域の話題や課題に対して興味を持てるのではないかなと思う。

委員

自分の子どもを見ても、保護者としても質問項目の文言に対して受け取り方が違うように感じる。何を問おうしているのか理解に苦しみ、答えにくいものがある。また、学年全体が持っている特徴や抱える課題はその学年によって違うと思うので、そのようなものがこの調査結果では見えてこない。学年が持つ特徴や課題が分かるような情報も同時に提供していただきたい。そうすれば、より適切な意見提供やアドバイスができるのではないかなと思う。

(この発言を受けて、教頭が2, 3学年の現状について報告を行った。)

2年・・・昨年度4月から5月中旬まで登校できなかったことによって、吉高生としての気概を育むことができなかったため、これまでの吉高生とは違うものがある。例としては、応援練習がなかったことによって校歌に対する愛着が無いように感じる。

3年・・・コロナ禍によって、取り組みやすい時期である2年時に部活動の各種大会に気兼ねなく取り組みができなかったことや、修学旅行を実施できなかったことにより、進路実現への気持ちの切り替えがうまくできない状況にあった。

委員

大変すばらしい結果であると思う。しかしながら、ポイントが高い項目を見ると質問項目の文言がたいへんシンプルで自分の状況を把握しやすいものである。その観点で見ると質問項目6「私は、身の回りに存在する課題に対して、意欲的に行動している」と質問項目8「地域の話題や課題などに興味を持って生活している」は内容が大変に似通っているものだと感じている。質問項目6は質問項目8と比較して、行動の難易度は「6」の方が高いように感じる。質問項目を設定する場合、教員の立場から作成しがちであるが、回答者としての立場で作成することで質問項目に対する回答者側の理解度が上がり、より実態を表す結果が出るのではないかなと思う。

(上記下線部の内容について、似通ったものになってしまった経緯を説明)

質問項目 8 は昨年度の学校評議員会からの助言を受けて、新しい文言に変えた。その結果に似た表現になってしまい、質問項目 6 との比較し、細かく検討しなかったために、このような質問項目になってしまった。

委員

数字を絶対評価で考えるのではなく、相対評価で考えるとよいと思う。集団の変化を重視して対応をしていくことが肝心である。企業においても、同様な調査（評価）を行っているが、私が所属している企業では数字の変化を重視し、分析し、対策を講じている。

委員

全国学力・学習状況調査における富士吉田地域の中学生の傾向を説明した。

高い項目は①自己有用感②規範意識③奉仕感である。

問題点としては①ネット依存が高い②読書習慣が身についていない③地域活動への参加率が低いという点である。③に関してはコロナ禍ということもあるが、地域が脆弱になっているということもある。

防災という点で地域の関りを意識させ、高校生は共助という面で地域への意識を強化できるのではないかと思います。

委員

小学校においても、コロナ禍によって育成会行事を実施できなくなっているために、地域との関りは少なくなっている。新しい観点で地域との関りを模索しているところである。

委員

学校評価における三年生の学習意欲に係る項目が昨年度より大きく向上している点に関して安心した。

富士北麓地域は地元の人たちにとっても大変魅力にあふれている地域です。地域の魅力をもっと知ってもらうための事業には積極的に支援していきたいと考えているので、そのような活動をたくさん実施し、地域とのつながりを意識できるようになっていただきたい。

委員

地域交流を深めるために学習や研究活動を行っている。学習活動に協力している地域機関は理系の研究機関が多い。逆に文系が少ない。このことから女子中学生が敬遠しているのではないかと思います。自分が所属している大学は文系であるが、協力できることがあるはずなので、積極的に協力していきたい。英文科、国際教育学科は女子生徒には魅力的ではないかと思います。

委員

質問項目 8 について：生徒への意識付けとして、生徒向け学校評価の実施回数を増やすことで、“どのように学校生活を送るのか”ということを再認識してもらえと思う。「地域とのかかわり方」については、生徒が「地域というものを意識して生活する」ということで解決できるのではないかと思います。集計はこれまで通り年 2 回でよいと思う。

女子生徒の希望減少について：他高校の学校説明会に行ったが、その学校では文系の事柄を強くアピールしていた。そのような説明を受けると文系の学校という印象を受けた。女子中学生の吉高への希望が減っているのは、吉田高校は「理系」というイメージが強く、女子中学生が敬遠しているということが想像できる。

「理系」「文系」どちらも学べるイメージを植え付ける工夫が必要ではないか。

会長（議長）

全員が意見を述べて頂き、ありがとうございました。私も都留文科大学に所属しております。是非、協力機関の仲間に入れて頂き、文系を希望している中学生が

増えることに協力したいと思う。

(校長)

多くの意見ありがとうございました。示唆に富むものばかりで感謝しております。これからの学校運営に活かしていきます。

②令和4年度教職員任用について

教頭谷内より冒頭に資料の見方等について説明を行った。その後、校長より今年度の任用に係る課題についての資料に基づいて委員に報告を行った。

課題

- ・普通科、理数科担任を担うことができる年齢層が薄いこと。特に理数科は数学・理科・英語の教員が望ましいと考えるが、平均年齢が「45.4歳」「51.6歳」「50.0歳」となっている。理科・英語でも理数科の担任ができるように世代交代をうまく実施したい。全体を通しては担任を任せることができる年齢層を増やしたい。
- ・地歴公民科、理科、英語の世代交代が課題。特に地歴公民科は30代、40代が不在である。理科について、30代が二人いるが、遠隔地勤務であり近々国中地域に戻ることが予想できる。また、年長者4人が3年以内に60歳を迎える。英語について、ほとんどが44歳以上であり、新採用と期間採用によって年齢を抑えられている。

(説明後 議長が発言を促す)

委員

理数科は地域において多くの中学生が入学したいと一度は思う科であるので、大変ブランディングとして高いものがある。それは、これまでの進学実績が素晴らしいものであったためであると思う。このブランディングを維持するためにも、指導力のある教員の配置をお願いしたい。指導力のある教員が異動した場合は、その補填ができるような指導力のある教員の配置をお願いすべきではないかと思う。資料を見ると地元、富士北麓地域ないし郡内地域出身の教員が少ないようであるので、これらの地域出身の若い世代と呼ばれる教員を配置してほしいと思う。そして、吉田高校で数多くの経験を積んで、アイデンティティを確立してほしいと願う。そういう意味で、できる限り吉田高校に長く勤務してくれる教員を望みたい。

委員

資料を見ると40歳代の層が薄い。男性教員が居ないということは意外である。40歳代はミドルリーダーという世代であるので、男性教員も在籍すべきであると思う。まずはこの点を改善すべきであると思う。

また、理数科は山梨県内の公立高等学校を支えている存在である。そして、吉田高校は教員を育てる環境に優れている学校であると思う。資料を見ると、30歳代で担任をしている教員は新採用からずっと吉田高校に勤務していると思われる。そのような世代が異動するのであるならば、同年代あるいはもっと若い世代の教員に赴任してもらいたいと思う。

委員

資料を見ると、富士北麓地域、郡内地域の出身あるいは定住している先生方が少ないように感じる。吉田高校は地域の担い手を育てる学校として地域から期待されているので、地元出身の教員が多く在籍してほしいと思う。甲府方面と比較し、郡内地域は人口的に少ないが、教員志望者が少ないと思っていない。現にこの地域出身で峡北地域の高校で正規ではない形で働いていて人を知っている。その人は、吉田高校で働きたいと思っている。しかし、採用試験が難しく、こちらへ戻ってくる場合は私立高校での勤務も選択肢になっていると聞いている。採用試験の方法を

工夫してほしいと思う。採用試験の方法の改革は難しいと思うので、若い世代（30 歳代）がこの地域に残るような施策も必要ではないかと思う。

委員

義務教育学校も同じ状況である。義務学校の場合は最短 2 年で移動できてしまう。他地域から移動の先生方をなかなか入学生の学年につけることは難しい状況にある。一方、コロナ禍によって、中学生の将来の職業希望は公務員、教員が多くなっている。そのような状況においては、教員の勤務におけるブラック感をどのように排除していくか、また教員としての社会的地位の改善が必要であると思っている。

中学校の卒業生の話を見ると、吉田高校の若い先生方の評判は良い。

校長

貴重なご意見ありがとうございました。学校運営協議会は県が設置しているものであり、学校運営協議会からの意見は大変重みあります。この場で頂いた意見をまとめて県教育委員会に届けさせて頂く。

③その他

議題なし

（議事終了）

（４）報告事項

①「魅力ある学校づくり事業」への応募について

教頭より概要説明を行う。

県教育委員会に申請を行い、認可を受けることができれば、担当教員 1 名が加配属配属され、その教員 1 名が主となって資料にある各事業を 2 年間かけて事業を行い、魅力ある教育活動を行うことになる。

②その他

なし

（５）連絡事項

①第 3 回学校運営協議会開催日について

教頭より 2 月中旬の休業日を予定していることと、これに伴って、12 月下旬から 1 月初旬にかけて各委員の都合を伺う予定であることを伝える。

②その他

なし

以上